小学生区分　◆優秀賞

岐阜県

優しさに、ありがとう

美濃加茂市立古井小学校 六年
西田江里菜

わたしは、生まれたときから、聴覚に障害を持っています。

音が聞こえないのではなく、音が聞こえ過ぎるのです。

他の人には聞こえないような、小さな音も、遠くでする音も、わたしの耳には入ってきます。音によっては大音量に変換されて聞こえてくるので、わたしの脳には負担が大きく、生活をしていてしんどいときもあります。

友達は、わたしにそんな障害があることは知らなかったと思います。音が聞こえ過ぎるなんて、見た目では分からないし、わたしから話したこともなかったから――。

家でも、外でも、いろんな音がしています。

みんなにとっては気にならない音が、わたしには気になります。

学校のお昼休みは、静かな教室で過ごすこともありました。その時間が楽しかったからでしょうか、友達といるときは、不思議と音は気にならなかったです。

一緒に居てくれた友達に、わたしは助けられていたのだと思います。

学校のような、人が集まる場所では、周りと同じに過ごすことを求められる場面もあり、障害を持つ人にとっては悩むこともたくさんあると思います。

そして、社会には、いろいろな情報があふれているゆえに、正しく障害を理解することは、家族であっても難しいです。

わたしの母も、わたしの障害に気付いたとき、どう向き合えば良いのか分からなかったようです。

母が、いっぱい悩んで、いっぱい泣いていたことを、わたしは知っています。そんな母を見て、わたしもまた苦しかったです。

でも母は、わたしの障害から目をそらすことはしませんでした。いつもわたしのそばに居てくれました。

そして、わたしたち家族を、周りの人たちが支えてくれました。

どんなことで困っているのか、どうすれば困り感を和らげることができるのか、一緒に考えて力を貸してくれました。

自分のことを思ってくれる人がいる、それは、わたしにとって、とても心強く嬉しかったです。

たくさんの人の優しさに、ありがとう。

わたしも、出会えた人たちのような、優しい人で在りたいです。

障害への理解が深まり、みんなが過ごしやすい社会になりますように。

小学生区分　◆優秀賞　大阪市

全国ろうあ者大会にさんかして

大阪教育大学附属平野小学校 三年
冨士居直都

ぼくは、六月十日と十一日の二日間、お母さんと、大分けんで開かれた全国ろうあ者大会に行きました。大分空こうに着いたらろう者に「大阪から来たのね。」と、かんげいしてもらいました。会場近くの駅は、ろう者がいっぱいで手話の町に来たみたいでした。ぼくは、かんたんな手話はできるけど、上手ではありません。でも、ろう者とよく会うので、手話が上手にできなくても心と心がつうじることを知っています。

ぼくは、この日、「ちびっこの会」にさんかして紙コップやじしゃくをつかったスピーカーを作りました。スタッフの人は、ちょう者とろう者で、作り方しどうは、しょうがい者がたくさんはたらいている会社から三人、来てくれました。一人目は、足がぼくと同じくらいの長さで車いすをつかっている人、二人目は、耳がほとんど聞こえない人、三人目は、生まれつきうでがひじくらいの長さの人です。ぼくは、うでがひじくらいの長さの人をすごくかわいそうだと思いました。でも、じこしょうかいの時に「かわいそうに見えるけど、かわいそうではないよ。ふべんなこともあるけど、笑顔で元気ですよ。」と教えてくれました。色々なことができて、とても器用な人だと思いました。

夜は、ろう者と一緒におんせんに入りました。おゆにつかりながら手話で話すと、顔におゆがピチャピチャとかかりました。ぼくは、面白くて、おんせんでする手話が大好きになりました。

次の日、黄色のふくをきたちょうどう犬とはじめて会いました。東京から来たろうのおばあちゃんのちょうどう犬でした。ほご犬からちょうどう犬になってかつやくしている話を教えてもらいました。ちょうどう犬の顔はあまえんぼうみたいに見えたけど、すごくかしこくて、音を知らせる仕ごとができてかんどうしました。

もう一つはじめてのことがありました。それは、盲ろうの人と話したことです。手をにぎって手話で「こんにちは」とするとつうじました。「はくしゅ」の手話をしたら、すごくよろこんでくれました。ぼくは、手話でたくさんおしゃべりができないけど、心を大切にしたらつうじるので、うれしいなぁと思いました。

大分けんからもどって、全国ろうあ者大会でとったしゃしんをたんにんの島本先生にタブレットで送りました。先生は、へんじをくれました。「直都さん、大分に行った時のしゃしんをありがとう。色々と学んでいることがうかがえました。すばらしいですね。よかったらしゃしんをもとに、みんなにお話ししてみたらどうですか。」と書いてありました。ぼくは、いっぱい話したいことがあったので、はっぴょうしました。友だちは、しつもんをしたり、かんそうを言ってくれました。友だちが、いろいろなしょうがいを知ったら、みんながたすけ合える世界になれると思うので、先生がはっぴょうをさせてくれてうれしかったです。

ふべんな思いをしている人をたすけ合う世界になったらしあわせになれると思うので、みんながしょうがいをたくさん知って、しょうがいのある人を守れるほうほうを考えたら、もっとくらしやすくなると思います。全国ろうあ者大会に行ってよかったです。らい年は和歌山けんで開かれるのでたのしみにしています。

小学生区分　◆優秀賞　静岡市

大ちゃんの薬

静岡市立清水小学校 四年
村松亜美

大ちゃんを見るたびに、私は、何かいい薬はないのかな、大人になるまでに薬ができるといいのになと思う。今日も大ちゃんが首に機関車のキャラクターの絵のついたケースをかけ、お気に入りのベルが入っていた箱を指さし、母に、「ベル」と聞こえる発音で、「ベル、ベル、ベル、…。」と言い続けていた。ここ何週間かの大ちゃんのルーティンだ。こわしてしまったからまた買ってほしいのか、これはベルだと教えたいのか、大ちゃんの言いたいことは家族にもわからないことが多い。

大ちゃんは、私の二才上の兄だ。まだ十分に言葉を話すことができないこともあり、特別支えん学校に通っている。よい悪いがわからず、学校では友達にかみつくこともあるようだ。家でも、テレビやパソコンをこわしてしまうし、家中のかべにクレヨンで落書きすることもある。私のランドセルのベルトをはさみで切ってしまったこともあった。そんな大ちゃんだから、私の方が妹だけれど、大ちゃんのことが気がかりでしかたがない。

「大ちゃんって、ずっとこのままなのかな。」

と、いつか私が言ったら、祖母が、

「大ちゃんも、ずい分成長しているんだよ。」

と言って、小さいころの大ちゃんの様子を話してくれた。そう言えば、大ちゃんはよくヒーターにティッシュをつめこんだり、水たまりにねころんでどろだらけになったりしていたけど、このごろはそんなことはしていない。トイレも着がえも一人でできるし、お風呂やふとんに入る時間もわかっている。楽しみがある日はカレンダーに印をつけている。ひと言で通じることも多くなった。そうか、ゆっくりかもしれないけれど、大ちゃんもしっかり成長しているんだと、うれしくなった。

この間、親せきの人が集まった時、母が、「できるかな。」と言いながら、「二かいにいるお姉ちゃんをよんできて。」と大ちゃんにたのんだことがあった。みんなが見守る中、大ちゃんの後ろから中学生の姉が下りて来て、一同はく手。でも、みんな、しゃべれない大ちゃんがどんな風によんできたのか不思議だった。姉に聞くと、大ちゃんの目や体の動きが用事もなく部屋に入ってくる時とちがったから、何か用事があるのかなと思った、ということだった。「すごい、ゆいちゃん。」とみんなは、またはく手。大ちゃんも姉もわらっていた。そうだ。確かに、大ちゃんの表じょうや動きには声にならない言葉がある。私にもその言葉がわかる時がある。この大ちゃんの言葉は、大ちゃんの身近にいる人にしかわからないかもしれない。でも、反対に考えれば、身近にいて、しっかり表じょうや動きを見ていてあげれば、大ちゃんの言葉は声が出ていなくても伝わるということになる。

姉の話を聞き、私は「薬」を見つけたぞ！と思った。姉がとった行動のように、「身近な人が大ちゃんの声なき言葉を聞こうという気持ちで大ちゃんにかかわっていくこと」、それが、大ちゃんの成長への一番の薬なんだ。